

町政を問う（一般質問）

QA 1

問 町内の空き家対策について問う
難解な問題の打開策を見いだせ

答 解決の方策を見いだしていく



佐藤徳治議員

全国的に増加し、町内にも散在している老朽化して倒壊の恐れがある空き屋を巡る諸問

題について、町長に対策を問う。

▽岩崎憲郎町長

地域の将来を考える上で大きな課題となっていることは承知している。対策としては、立ち入り調査、指導、



放置された空き屋

助言、勧告等があるが、まず所有者の責任において対応してもらうことが基本であると考え

▽佐藤徳治議員

平成29年に対応を依頼した案件について、現地調査をするなど対応したが、所有者不明ということで現在も進展していない。その間にも近隣住民は倒壊の危険性や害虫発生などの衛生面で多大な迷惑を被り、また国道に面しているため景観を著しく損ねている。

県外では所有者不明の危険な空き家を自治体が費用負担して強制撤去した例もある。本町でも独自の条例を制定するなどの対応策がとれないか。安心安全な住み良い町づくりには、最重要課題であると考えるが今後の対応

QA 2

問 タイムラインの課題について避難所の運営など自主的な取り組みが必要

答 住民主体の取り組みができるようサポートする



三谷よし恵議員

台風や豪雨災害が増えている中で、本町で運用されているタイムラインの振り返りでの課題や新たな取り組み



タイムライン見直し検討会

意見やコミュニティの力も借りながら具体的な行動できる方策を見いだしていけるよう取り組む。

について問う。

▽岩崎憲郎町長

課題は、避難勧告、指示の解除のタイミングが難しいこと、避難所の運営の問題、国のガイドラインと本町のタイムラインの段階毎の対応の違いなどがあ

る。今後専門家の意見も聞きながら取り組みを進める。

▽三谷よし恵議員

高齢の方などに情報を届けるため、町独自の啓発活動が必要で、避難所での食料の課題など運営を統一する必要があるのではない

▽岩崎憲郎町長

広報誌などを利用して啓発している。避難所については、住民主体の運営ができるよう、運営マニュアルを作成していく。

QA 3

問 拠点避難所の管理について問う
拠点避難所の早急な修繕が必要ではないか

答 原因を調査し早急に対応する

▽三谷よし恵議員

福祉避難所として使

用しているふれあいセンターの管理につい

て、以前から雨漏りなどがあるが、修繕等対応はどうかっているのか。

▽岩崎憲郎町長

拠点避難所については、公共施設としての管理をしている。指摘の点については調査の結果、屋上の防水工事だけでは対処できないということ、すぐの対応はできないが、原



総合ふれあいセンター

因を突き止め早急に修繕する。

QA 4

問 南海トラフ地震対策について問う
孤立化が考えられるが、対策は万全か

答 自助、共助、公助の総力戦で対応する

▽三谷よし恵議員

非常用備蓄品の保有状況、配備計画、管理について問う。

また、発災した場合の職員の体制、若い職員が対応を的確にできるかを問う。

▽岩崎憲郎町長

想定する被害の状況に適應できる備蓄品（食品・水・簡易トイレ・停電時の電源等）を中央に整備し、順次補充交換を行い、必要箇所に届ける体制を計画している。



備蓄品

▽岩崎憲郎町長

各自主防災組織は独自の訓練や一斉の訓練などに取り組んでいる。災害に対しては、自主防災組織だけでなく、

QA 5

問 創生総合戦略の進捗状況について
移転要望を見越した対応を図れ

答 積極人口100%を目指す



小笠原妙子議員

本町の目指すべき方向として積極人口100%、人口減少対策への挑戦として取り組んだ結果、人口減となっているが、創生総合戦略5年計画の進捗状況について問う。

▽岩崎憲郎町長

目指す方向に向けて、結果を受け入れ、反省を踏まえ次に繋げていくよう更に努力することが大切であると考え

で、防災意識を高め継続していけるよう取り組んでいく。

▽小笠原妙子議員

取り組みは理解できるが、若者定住対策に何かできるのか、知恵を絞り前向きに進むことを考え、抜本的な改

革をして、具体的な策を示し、皆で取り組むことが必要ではないか。

▽岩崎憲郎町長

まさに日々の営みをしっかりしていくことが取り組みであり、行政は住民の皆さんをサポートし、意識を共有し、一緒に考え行動できるよう取り組んでいきたい。



おおとよ創生総合戦略推進会議